

6 令和元年の自殺の状況

(1) 令和元年における自殺の概要

自殺統計によると（第1-14表）、令和元年の自殺者数（第1-14-1表）は2万169人で、前年に比べ671人（3.2%）減少した。性別では、男性が1万4,078人で全体の69.8%を占めている。

年齢別の状況についてみると（第1-14-2表）、「50歳代」が3,435人で全体の17.0%を占め、次いで、「40歳代」（3,426人、17.0%）、「70歳代」（2,917人、14.5%）、「60歳代」（2,902人、14.4%）の順となっている。前年と比べて、10歳代で増加し、それ以外の年齢階級では減少している。

職業別の状況についてみると（第1-14-3表）、「無職者」が1万1,345人で全体の56.2%を占めて最も多く、次いで「被雇用者・勤め

人」（6,202人、30.8%）、「自営業・家族従業者」（1,410人、7.0%）、「学生・生徒等」（888人、4.4%）の順となっており、この順位は前年と同じである。前年と比べて、「学生・生徒等」で自殺者数が増加している。

原因・動機別の状況についてみると（第1-14-4表）、原因・動機特定者は1万4,922人（74.0%）であり、そのうち原因・動機が「健康問題」にあるものが9,861人で最も多く、次いで「経済・生活問題」（3,395人）、「家庭問題」（3,039人）、「勤務問題」（1,949人）の順となっており、この順位は前年と同じである。また、前年と比べて、「家庭問題」、「健康問題」、「経済・生活問題」及び「勤務問題」で自殺者数が減少している。

第1-14表 自殺者の年次比較

第1-14-1表 総数

(単位：人)

	総数			成人			少年			不詳		
	男	女	成人	男	女	少年	男	女	不詳	男	女	
令和元年 (構成比)	20,169 (100.0%)	14,078 (69.8%)	6,091 (30.2%)	19,457 (100.0%)	13,590 (69.8%)	5,867 (30.2%)	659 (100.0%)	443 (67.2%)	216 (32.8%)	53 (100.0%)	45 (84.9%)	8 (15.1%)
平成30年 (構成比)	20,840 (100.0%)	14,290 (68.6%)	6,550 (31.4%)	20,189 (100.0%)	13,876 (68.7%)	6,313 (31.3%)	599 (100.0%)	366 (61.1%)	233 (38.9%)	52 (100.0%)	48 (92.3%)	4 (7.7%)
増減数 (構成比)	-671 -	-212 (1.2)	-459 (-1.2)	-732 -	-286 (1.1)	-446 (-1.1)	+60 -	+77 (6.1)	-17 (-6.1)	+1 -	-3 (-7.4)	+4 (7.4)
増減率(%)	-3.2	-1.5	-7.0	-3.6	-2.1	-7.1	10.0	21.0	-7.3	1.9	-6.3	100.0

第1-14-2表 年齢階級別自殺者数

(単位：人)

	総数	少年		成人							不詳
		～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～	
令和元年 (構成比)	20,169 (100.0%)	0 (0%)	659 (3.3%)	2,117 (10.5%)	2,526 (12.5%)	3,426 (17%)	3,435 (17%)	2,902 (14.4%)	2,917 (14.5%)	2,134 (10.6%)	53 (0.3%)
平成30年 (構成比)	20,840 (100.0%)	0 (0%)	599 (2.9%)	2,152 (10.3%)	2,597 (12.5%)	3,498 (16.8%)	3,575 (17.2%)	3,079 (14.8%)	2,998 (14.4%)	2,290 (11%)	52 (0.2%)
増減数 (構成比)	-671 -	0 (0.0)	+60 (0.4)	-35 (0.2)	-71 (0.0)	-72 (0.2)	-140 (-0.2)	-177 (-0.4)	-81 (0.1)	-156 (-0.4)	+1 (0.1)
増減率(%)	-3.2	-	10.0	-1.6	-2.7	-2.1	-3.9	-5.7	-2.7	-6.8	1.9

第1-14-3表 職業別自殺者数

(単位：人)

	総数	自営業・ 家族従業者	被雇用者・ 勤め人	無職		不詳
				学生・生徒等	無職者	
令和元年 (構成比)	20,169 (100.0%)	1,410 (7%)	6,202 (30.8%)	888 (4.4%)	11,345 (56.2%)	324 (1.6%)
平成30年 (構成比)	20,840 (100.0%)	1,483 (7.1%)	6,447 (30.9%)	812 (3.9%)	11,776 (56.5%)	322 (1.5%)
増減数 (構成比)	-671 -	-73 (-0.1)	-245 (-0.1)	+76 (0.5)	-431 (-0.3)	+2 (0.1)
増減率(%)	-3.2	-4.9	-3.8	9.4	-3.7	0.6

表1-14-4表 原因・動機別自殺者数

(単位：人)

	総数	原因・動機 特定者	原因・動機 不特定者
令和元年 (構成比)	20,169 (100.0%)	14,922 (74%)	5,247 (26%)
平成30年 (構成比)	20,840 (100.0%)	15,551 (74.6%)	5,289 (25.4%)
増減数 (構成比)	-671 -	-629 (-0.6)	-42 (0.6)
増減率(%)	-3.2	-4.0	-0.8

(単位：人)

	原因・動機特定者の原因・動機別						
	家庭問題	健康問題	経済・ 生活問題	勤務問題	男女問題	学校問題	その他
令和元年	3,039	9,861	3,395	1,949	726	355	1,056
平成30年	3,147	10,423	3,432	2,018	715	354	1,081
増減数	-108	-562	-37	-69	11	1	-25
増減率(%)	-3.4	-5.4	-1.1	-3.4	1.5	0.3	-2.3

注：1) 自殺の多くは多様かつ複合的な原因及び背景を有しており、様々な要因が連鎖する中で起きている。

2) 遺書等の自殺を裏付ける資料により明らかに推定できる原因・動機を自殺者一人につき3つまで計上可能としているため、原因・動機特定者の原因・動機別の和と原因・動機特定者数(平成30年は15,551人、令和元年は14,922人)とは一致しない。

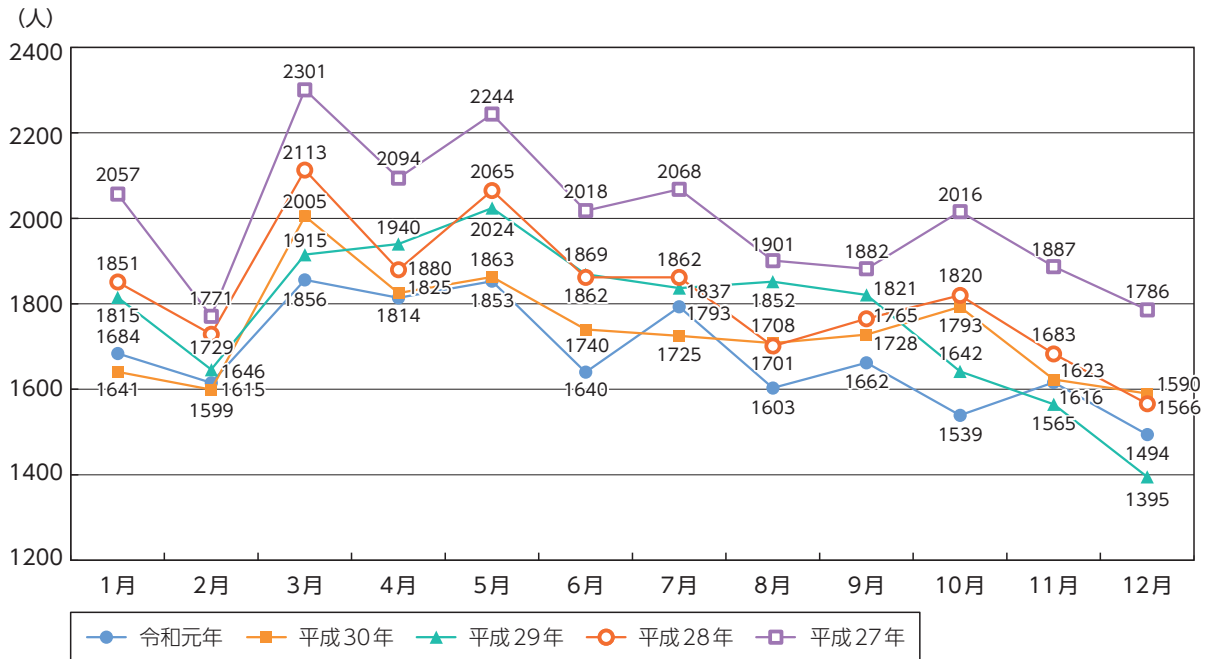
資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

(2) 月別自殺者数の推移

令和元年における月別自殺者数の推移をみると、自殺統計によれば（第1-15図）、「3月」が最も多く、「12月」が最も少なくなっ

ている。また、1、2、7月で前年の自殺者数を上回り、3～6、8～12月で前年を下回った。

第1-15図 月別自殺者数の推移

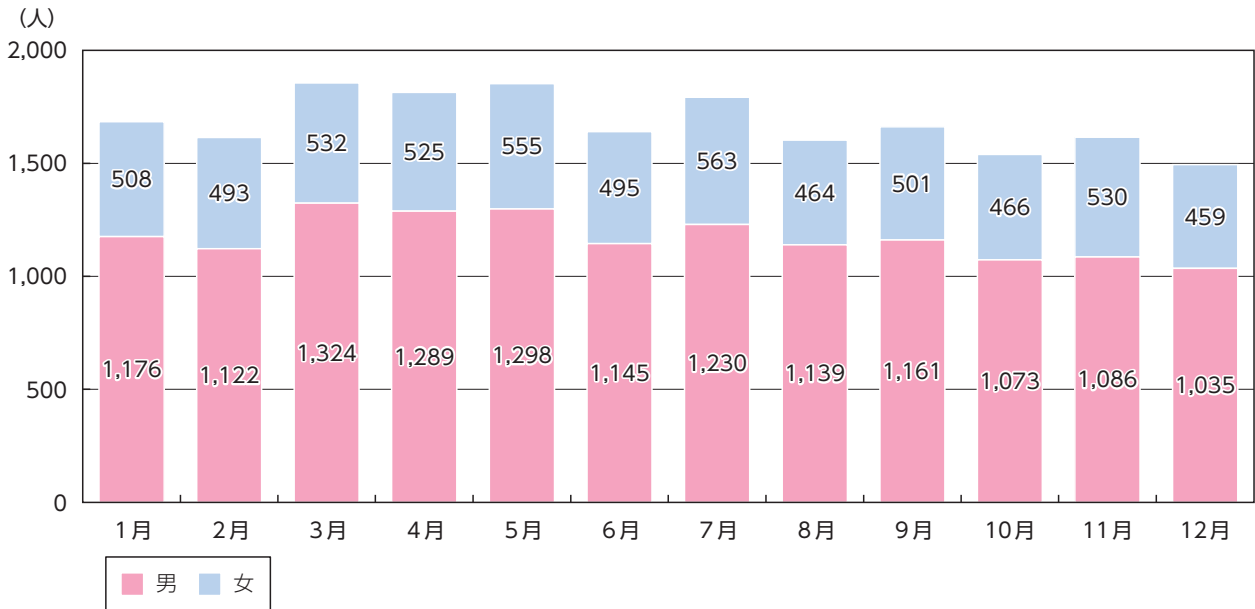


資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

また、男女別の月別の自殺者数の推移をみると、自殺統計によれば（第1-16図）、男性は「3月」、女性は「7月」に自殺者数が最

も多くなっている。また、自殺者数が最も少ない月は、男性、女性ともに「12月」となっている。

第1-16図 令和元年における月別自殺者数（男女）

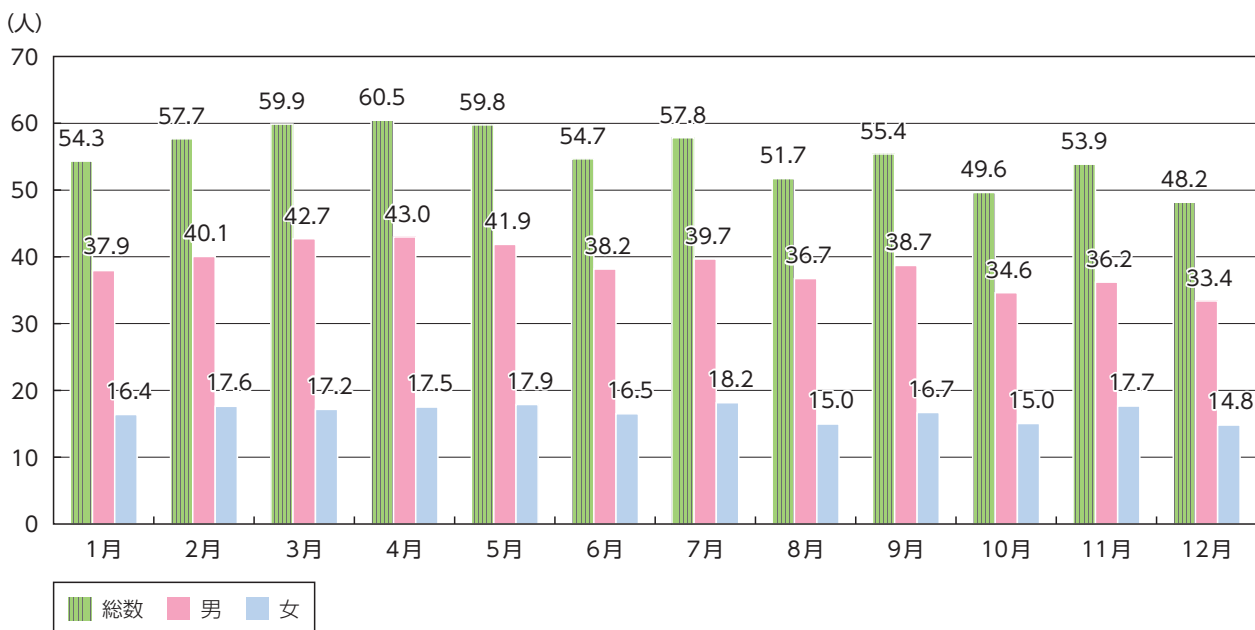


資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

1か月間の日数の影響を排除するため、令和元年における月別の一日平均自殺者数をみると、自殺統計によれば（第1-17図）、「4

月」が最も多くなっており、「12月」が最も少なくなっている。

第1-17図 令和元年における月別の一日平均自殺者数



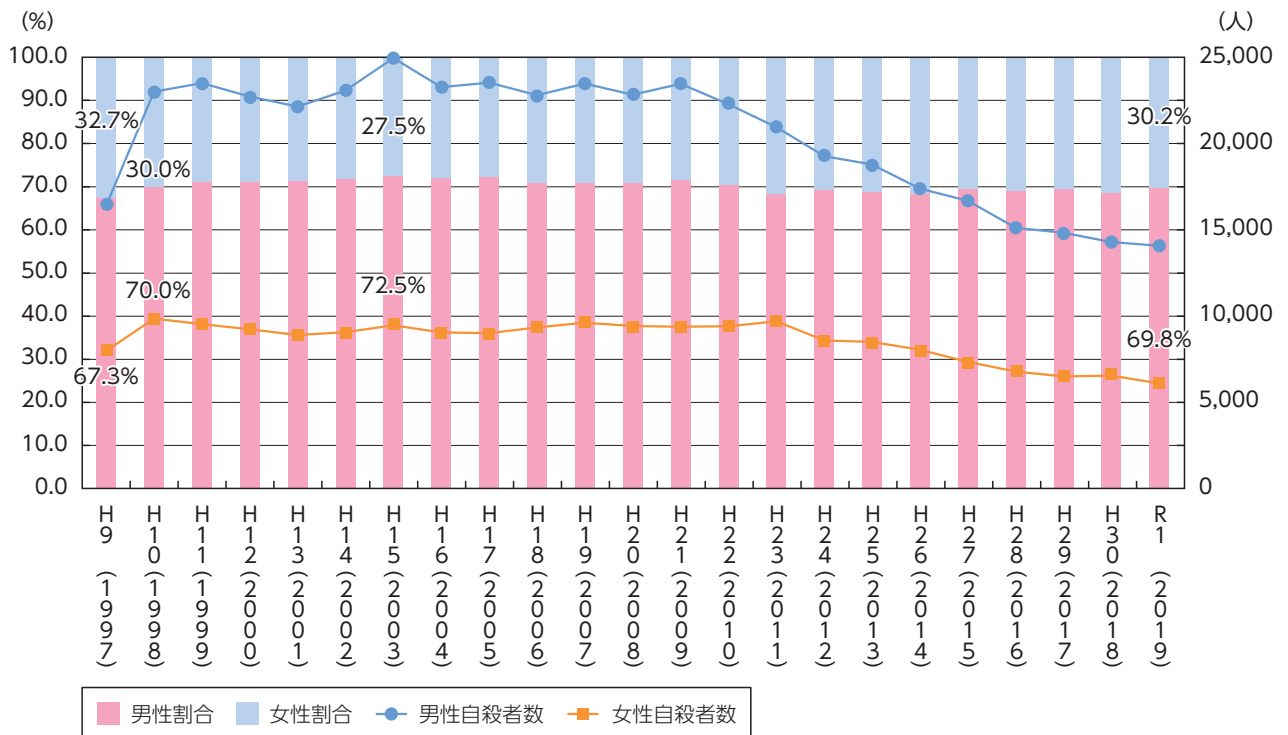
資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

(2) 男女別の状況

令和元年における男女別の自殺者の状況を見ると、自殺統計によれば（第1-18図）、自殺者全体の男女別構成比は男性が69.8%となっており、男性がほぼ7割を占めている。

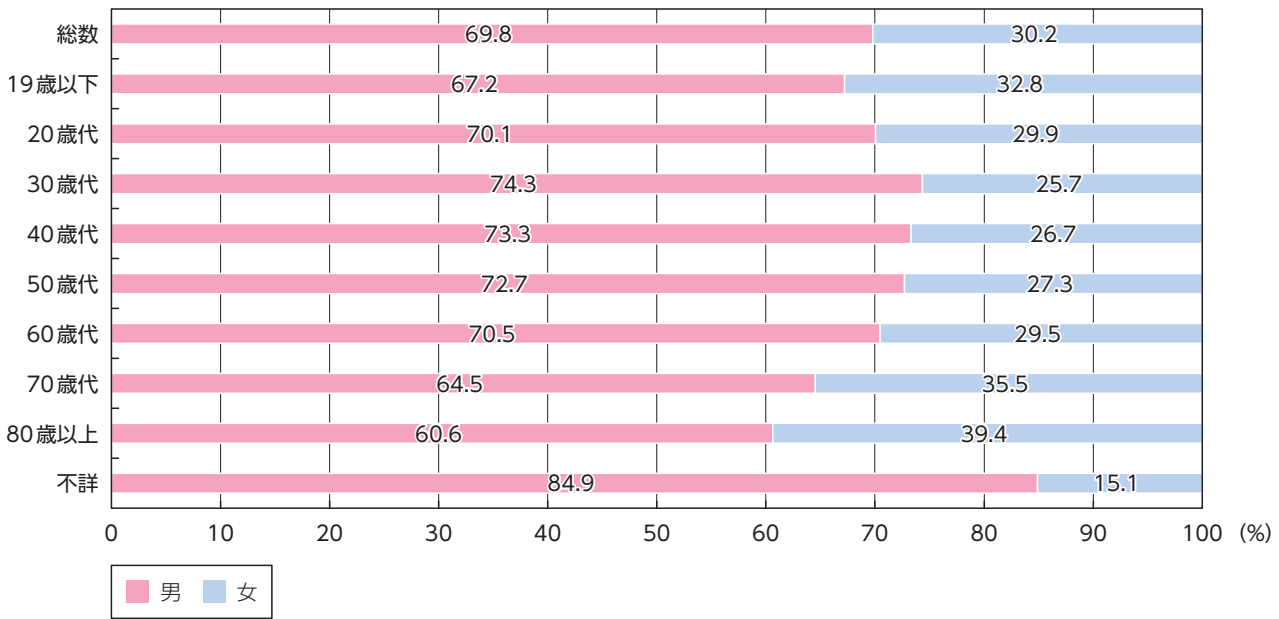
また、年齢階級別にみると（第1-19図）、全ての階級において男性の占める割合が高く、特に20歳代から60歳代までは男性が7割を超えている。

第1-18図 自殺者の男女別構成比の推移



資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

第1-19図 令和元年における年齢階級別の自殺者の男女別構成割合



資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

(3) 年齢階級別の状況

令和元年における年齢階級別の自殺者数をみると、自殺統計によれば（第1-20表）、男

性では40歳代が最も多く、女性では70歳代が最も多くなっている。また、40歳代から60歳代の男性で全体の約3分の1強を占めている。

第1-20表 令和元年における男女別の年齢階級別の自殺者の構成割合

	男		女	
	人数	構成割合	人数	構成割合
10歳代	443	2.2	216	1.1
20歳代	1,483	7.4	634	3.1
30歳代	1,878	9.3	648	3.2
40歳代	2,511	12.4	915	4.5
50歳代	2,497	12.4	938	4.7
60歳代	2,045	10.1	857	4.2
70歳代	1,882	9.3	1,035	5.1
80歳以上	1,294	6.4	840	4.2
不詳	45	0.2	8	0.0

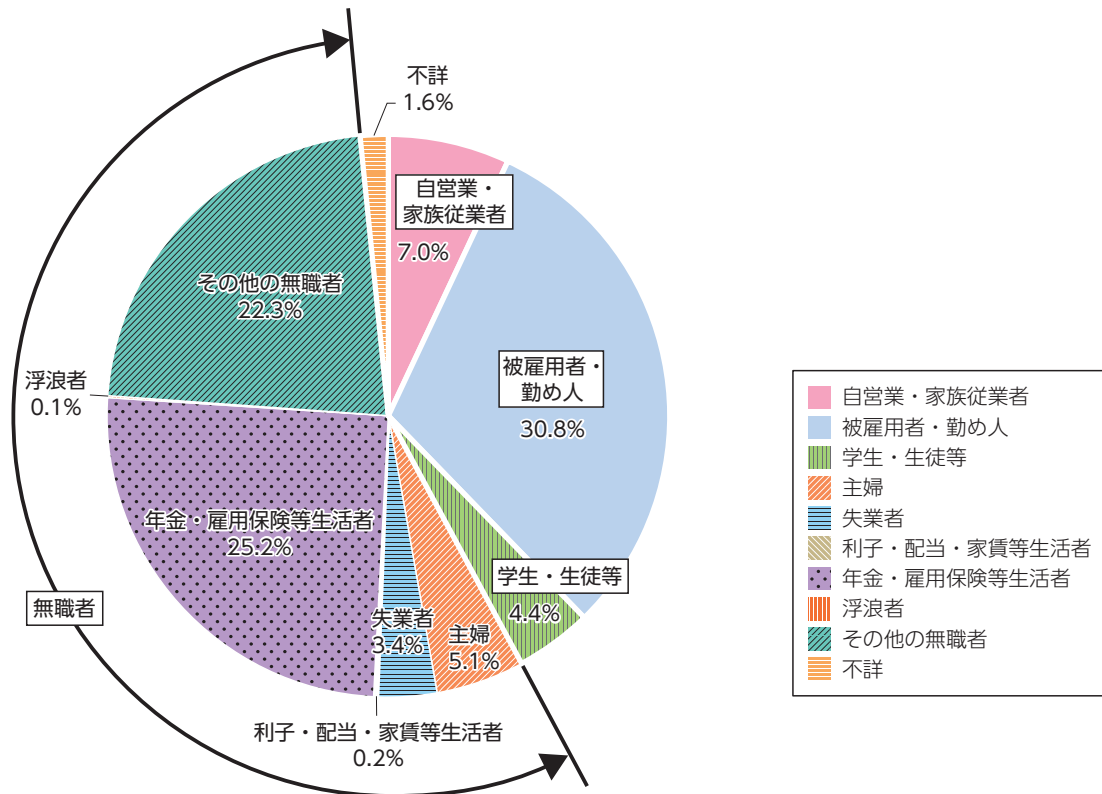
資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

(4) 職業別の状況

令和元年の職業別の自殺の状況を見ると、自殺統計によれば（第1-21図）、(1)で述べたとおり「無職者」が最も多い。「無職者」の

内訳をみると、「年金・雇用保険等生活者」が最も多く、次いで「その他の無職者」、「主婦」、「失業者」の順となっている。

第1-21図 令和元年における職業別自殺数の構成割合



資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

さらに、年齢階級別、職業別の自殺者数をみると、自殺統計によれば（第1-22表）、総数では「40歳代」及び「50歳代」が3,400人前半で、自殺者数の多い階層となっている。「自営業・家族従業者」では「50歳代」と

「60歳代」、「被雇用者・勤め人」では「30歳代」から「50歳代」、「無職者」では「60歳代」以上が多いなど、職業によって自殺者数の多い年代は異なる。

第1-22表 年齢階級別、職業別自殺者数

(単位：人)

職業別		年齢階級別									合計	
		～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～	不詳		
合計	計	659	2,117	2,526	3,426	3,435	2,902	2,917	2,134	53	20,169	
	男	443	1,483	1,878	2,511	2,497	2,045	1,882	1,294	45	14,078	
	女	216	634	648	915	938	857	1,035	840	8	6,091	
自営業・家族従業者	計	0	38	153	281	330	311	230	67	0	1,410	
	男	0	35	143	256	295	279	194	57	0	1,259	
	女	0	3	10	25	35	32	36	10	0	151	
被雇用者・勤め人	計	74	1,041	1,276	1,579	1,409	611	185	27	0	6,202	
	男	55	764	1,065	1,291	1,188	517	153	24	0	5,057	
	女	19	277	211	288	221	94	32	3	0	1,145	
無職	学生・生徒等	計	516	354	11	6	1	0	0	0	0	888
		男	346	262	7	3	1	0	0	0	0	619
		女	170	92	4	3	0	0	0	0	0	269
	無職者	計	68	647	1,049	1,488	1,628	1,942	2,485	2,038	0	11,345
		男	42	398	633	900	949	1,216	1,525	1,211	0	6,874
		女	26	249	416	588	679	726	960	827	0	4,471
	主婦	計	0	31	117	203	288	222	122	42	0	1,025
		男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	31	117	203	288	222	122	42	0	1,025
	失業者	計	4	80	121	192	214	62	11	0	0	684
		男	2	54	111	174	190	57	9	0	0	597
		女	2	26	10	18	24	5	2	0	0	87
	年金・雇用保険等生活者	計	1	31	85	161	182	1,020	1,920	1,681	0	5,081
		男	1	14	47	92	111	679	1,230	1,031	0	3,205
		女	0	17	38	69	71	341	690	650	0	1,876
その他	計	63	505	726	932	944	638	432	315	0	4,555	
	男	39	330	475	634	648	480	286	180	0	3,072	
	女	24	175	251	298	296	158	146	135	0	1,483	
不詳	計	1	37	37	72	67	38	17	2	53	324	
	男	0	24	30	61	64	33	10	2	45	269	
	女	1	13	7	11	3	5	7	0	8	55	

注)「その他」は、「利子・配当・家賃等生活者」、「浮浪者」及び「その他の無職者」を足し合わせたもの。

(5) 原因・動機別の状況

令和元年における年齢別、原因・動機別の自殺者数をみると、自殺統計によれば（第1-23表）、「家庭問題」は男女ともに「40歳代」と「50歳代」が多い。「健康問題」については、男女ともに「70歳代」が多い。「経済・

生活問題」については、男性の方が女性よりも著しく多く、中でも「40歳代」と「50歳代」が多い。「勤務問題」についても、男性の方が女性よりも著しく多く、「20歳代」から「50歳代」が多い。「男女問題」は「20歳代」から「40歳代」が多い。

第1-23表 年齢階級別、原因・動機別自殺者数

(単位：人)

原因・動機別		年齢階級別									
		～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～	不詳	合計
合計	計	618	2,130	2,612	3,669	3,678	2,840	2,880	1,949	5	20,381
	男	385	1,438	1,894	2,649	2,632	1,990	1,789	1,118	5	13,900
	女	233	692	718	1,020	1,046	850	1,091	831	0	6,481
家庭問題	計	116	224	435	590	528	393	434	319	0	3,039
	男	70	137	267	389	325	254	242	186	0	1,870
	女	46	87	168	201	203	139	192	133	0	1,169
健康問題	計	138	679	979	1,490	1,587	1,596	1,960	1,430	2	9,861
	男	66	362	605	887	942	987	1,181	821	2	5,853
	女	72	317	374	603	645	609	779	609	0	4,008
経済・生活問題	計	11	341	474	750	880	577	302	57	3	3,395
	男	6	303	440	660	778	509	238	43	3	2,980
	女	5	38	34	90	102	68	64	14	0	415
勤務問題	計	26	367	385	513	464	148	40	6	0	1,949
	男	19	283	343	464	426	136	37	3	0	1,711
	女	7	84	42	49	38	12	3	3	0	238
男女問題	計	63	237	187	153	64	14	7	1	0	726
	男	32	130	121	108	49	9	5	0	0	454
	女	31	107	66	45	15	5	2	1	0	272
学校問題	計	202	144	8	1	0	0	0	0	0	355
	男	146	117	5	1	0	0	0	0	0	269
	女	56	27	3	0	0	0	0	0	0	86
その他	計	62	138	144	172	155	112	137	136	0	1,056
	男	46	106	113	140	112	95	86	65	0	763
	女	16	32	31	32	43	17	51	71	0	293

注：1) 自殺の多くは多様かつ複合的な原因及び背景を有しており、様々な要因が連鎖する中で起きている。

2) 遺書等の自殺を裏付ける資料により明らかに推定できる原因・動機を自殺者一人につき3つまで計上可能としているため、原因・動機特定者の原因・動機別の和と原因・動機特定者数(14,922人)とは一致しない。

職業別、原因・動機別の状況をみると、自殺統計によれば（第1-24表）、「自営業・家族従業者」は「経済・生活問題」と「健康問題」が多く、「被雇用者・勤め人」は「健康

問題」と「勤務問題」が多い。「学生・生徒等」は「学校問題」と「健康問題」が多く、「無職者」は「健康問題」が著しく多い。

第1-24表 職業別、原因・動機別自殺者数

(単位：人)

原因・動機別	職業別	自営業・ 家族従業者	被雇用者・ 勤め人	無職					不詳	
				学生・生徒等	無職者	主婦	失業者	年金・雇用保険等生活者		その他
合計	計	1,550	6,542	856	11,294	1,095	843	5,051	4,305	139
	男	1,370	5,293	579	6,547	0	721	3,095	2,731	111
	女	180	1,249	277	4,747	1,095	122	1,956	1,574	28
家庭問題	計	205	979	120	1,715	262	97	757	599	20
	男	164	733	75	881	0	84	450	347	17
	女	41	246	45	834	262	13	307	252	3
健康問題	計	467	2,035	205	7,114	744	266	3,638	2,466	40
	男	385	1,478	120	3,843	0	216	2,192	1,435	27
	女	82	557	85	3,271	744	50	1,446	1,031	13
経済・生活問題	計	628	1,173	48	1,501	36	371	367	727	45
	男	595	1,084	40	1,220	0	334	278	608	41
	女	33	89	8	281	36	37	89	119	4
勤務問題	計	145	1,596	12	190	11	51	21	107	6
	男	132	1,413	6	154	0	42	19	93	6
	女	13	183	6	36	11	9	2	14	0
男女問題	計	41	427	79	175	16	25	19	115	4
	男	35	303	44	71	0	17	7	47	1
	女	6	124	35	104	16	8	12	68	3
学校問題	計	0	8	323	24	0	0	0	24	0
	男	0	7	241	21	0	0	0	21	0
	女	0	1	82	3	0	0	0	3	0
その他	計	64	324	69	575	26	33	249	267	24
	男	59	275	53	357	0	28	149	180	19
	女	5	49	16	218	26	5	100	87	5

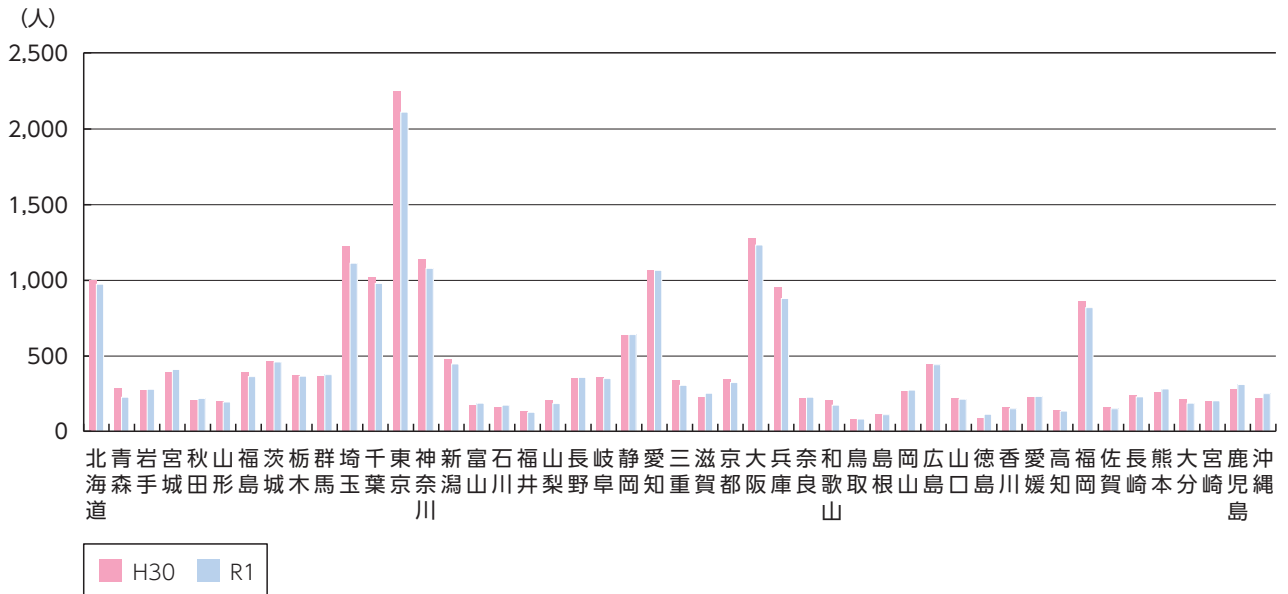
- 注：1) 自殺の多くは多様かつ複合的な原因及び背景を有しており、様々な要因が連鎖する中で起きている。
 2) 遺書等の自殺を裏付ける資料により明らかに推定できる原因・動機を自殺者一人につき3つまで計上可能としているため、原因・動機特定者の原因・動機別の和と原因・動機特定者数（14,922人）とは一致しない。
 3) 「その他」は、「利子・配当・家賃等生活者」、「浮浪者」及び「その他の無職者」を足し合わせたもの。

(6) 都道府県別の状況

令和元年における都道府県別の自殺の状況をみると、自殺統計によれば、自殺者数につ

いては（第1-25図）前年に比べ、30都道府県で減少、16県で増加、1県で横ばいとなっている²。

第1-25図 都道府県別の自殺者数

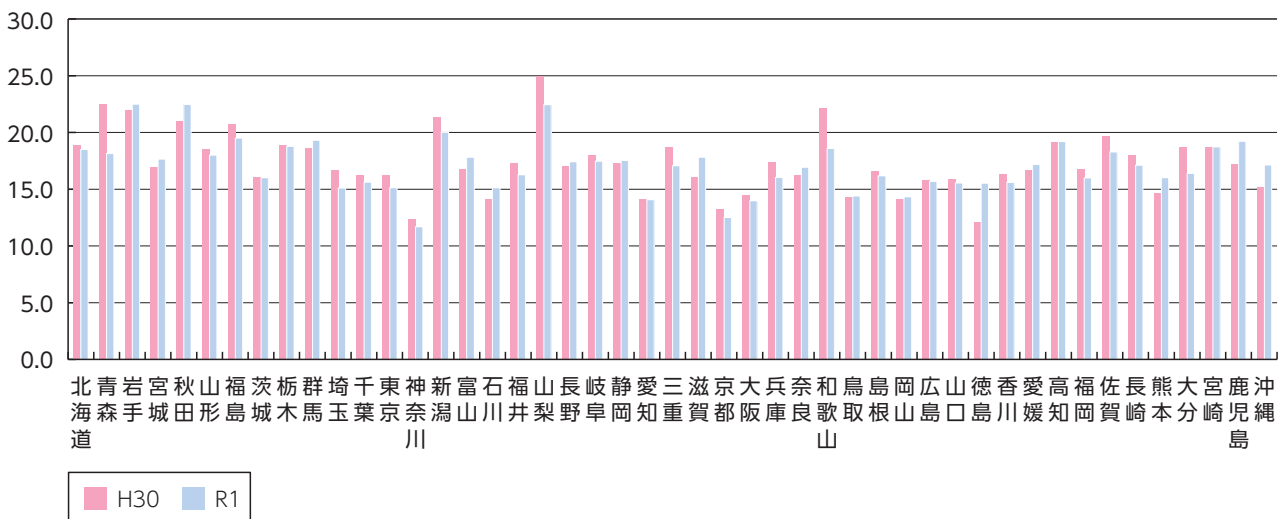


資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

また、自殺死亡率についてみると（第1-26図）、前年に比べ、28都道府県で低下、19

県で上昇となっている。

第1-26図 都道府県別の自殺死亡率



資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

2 自殺の発見地の都道府県に計上しており、自殺者の住居地とは異なる。

(7) 手段別の状況

令和元年における手段別の自殺の状況について、自殺統計によれば（第1-27図）、男性では「首つり」（67.7%）が最も多く、次いで「飛降り」（9.2%）、「練炭等」（8.7%）となっており、女性では「首つり」（58.6%）が最も多く、次いで「飛降り」（15.0%）、「入水」（5.7%）となっている。

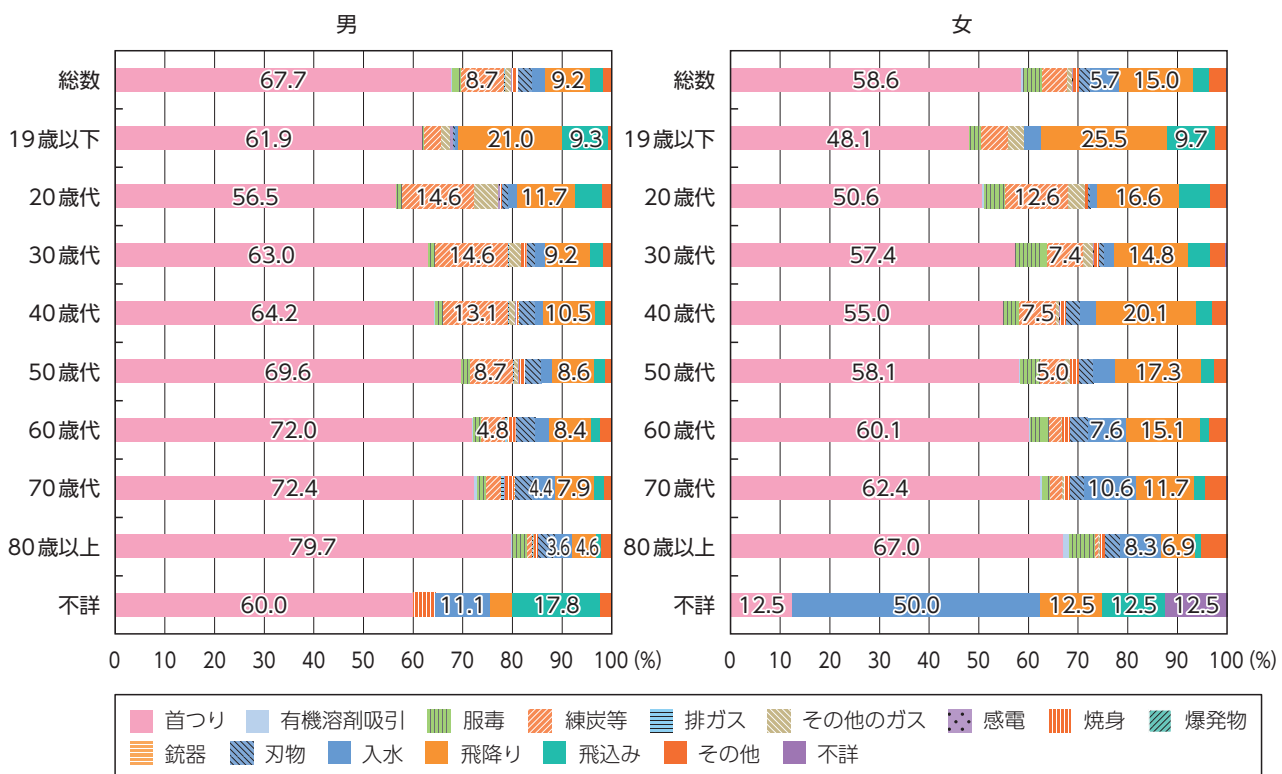
また、男女別・年齢階級別で見ると、男女とも全ての階級で「首つり」が最も多い。

男性については、「首つり」に次いで、19

歳以下では「飛降り」、「飛込み」、20歳代から50歳代では「練炭等」、「飛降り」、60歳代では「飛降り」「練炭等」、70歳代及び80歳以上では「飛降り」「入水」の順で多くなっている。

女性については、「首つり」に次いで、19歳以下では「飛降り」、「飛込み」、20歳代から50歳代では「飛降り」「練炭等」、60歳代及び70歳代では「飛降り」「入水」、80歳代以上では「入水」「飛降り」の順で多くなっている。

第1-27図 令和元年における男女別・年齢階級別（10歳階級）・自殺の手段別の自殺者数の構成割合



資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

(8) 場所別の状況

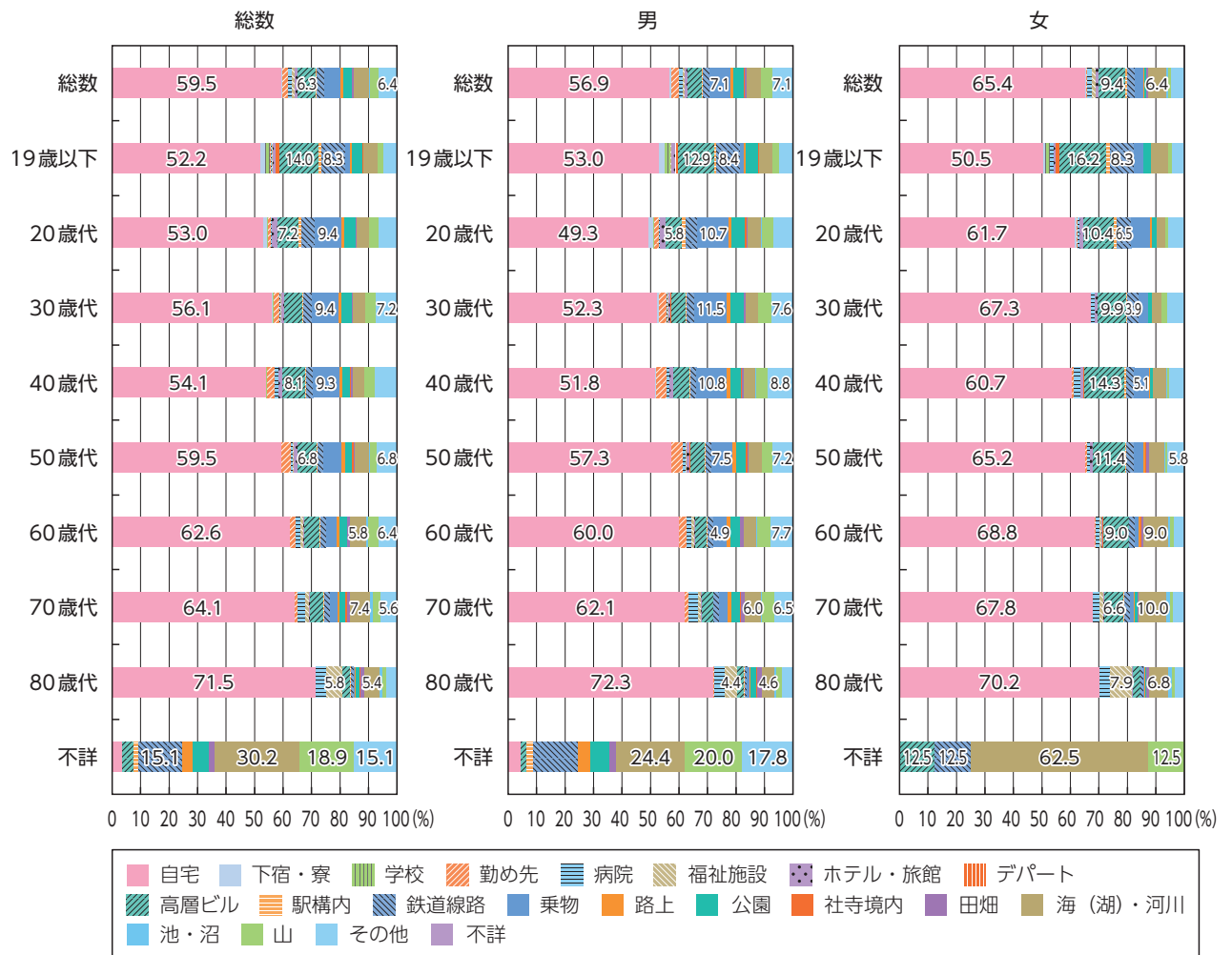
令和元年における場所別の自殺の状況について、自殺統計によれば（第1-28図）、「自宅」（59.5%）が最も多く、次いで「その他」（6.4%）、「高層ビル」（6.3%）となっている。

男女別にみると、男性については、「自宅」（56.9%）、「乗物」（7.1%）、「その他」（7.1%）などとなっている。女性については、「自宅」（65.4%）、「高層ビル」（9.4%）、「海（湖）・河川」（6.4%）などとなっている。

年齢階級別にみると、男女とも全ての階級

において「自宅」が最も多いが、男性については、「自宅」に次いで、20歳代から50歳代までは「乗物」、19歳以下では「高層ビル」、60歳代及び70歳代では「その他」、80歳以上は「海（湖）・河川」が多くなっている。女性についても、「自宅」に次いで、19歳以下から50歳代までは「高層ビル」、60歳代では「高層ビル」及び「海（湖）・河川」、70歳代では「海（湖）・河川」、80歳以上では「福祉施設」が多くなっている。

第1-28図 令和元年における男女別・年齢階級別（10歳階級）・自殺の場所別の自殺者数の構成割合



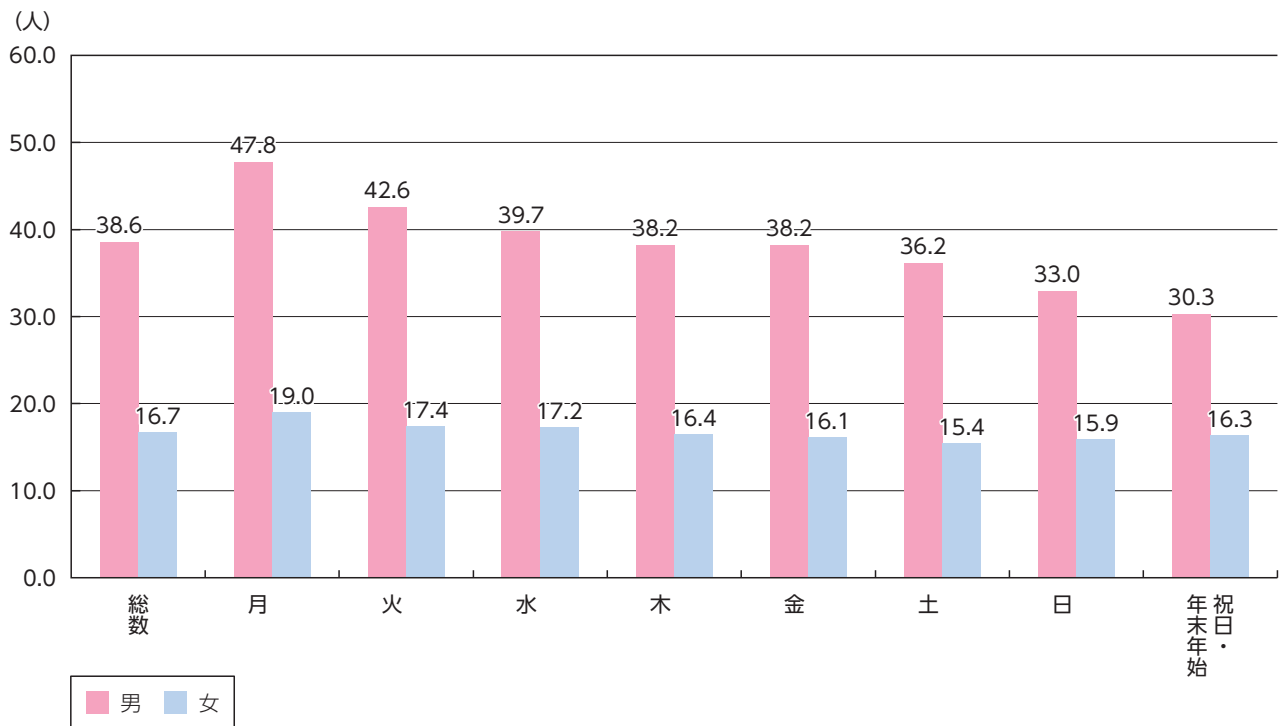
資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

(9) 曜日・時間別の状況

令和元年における発見曜日別一日平均自殺者数について、自殺統計によれば（第1-29図）、男性、女性ともに「月曜日」（男性47.8人、女性19.0人）が最も多く、次いで、男性、

女性ともに「火曜日」（42.6人、17.4人）が多くなっている。また、男性は「祝日・年末年始」（30.3人）、女性は「土曜日」（15.4人）が最も少なくなっている。

第1-29図 令和元年における発見曜日別の一日平均自殺者数



資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成